

平成24年度 学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校・定時制課程)

目指す学校像	基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、様々な教育活動を通じて人権尊重の精神を養い、一人一人の生徒が生き生きと前向きに学び合うことができる学校
--------	---

重点目標	1 一人ひとりの居場所の確保、安心して学べる学習環境の整備 2 「わかる授業」の実践と進路に応じた学習能力の育成 3 キャリア教育の実践と進路希望の実現 4 安定した生活習慣の獲得、社会規範の形成、自己管理能力の育成 5 保護者、地域、中学校と連携した教育の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 2 2 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	社会人、不登校、中途退学経験者、外国籍の生徒など様々な経緯の生徒が在籍する。一人ひとりの居場所を確保し、学校生活に前向きに取り組むことができるような教育活動の工夫と学習環境が必要である。	○学校生活に満足している生徒数増加 ○中途退学率の減少	①学校生活に関するアンケートを実施し、分析結果から教育活動を工夫(年度当初、中間期、年度末にアンケート実施、対策検討) ②不登校、発達障害等研修会を実施指導や教育相談に活用 ③部活動、補習、ボランティア活動生徒会活動を充実	①学校生活に満足する生徒数80%以上 ②中学校不登校経験者の改善率の上昇 ③部活動、補習、ボランティア活動、生徒会活動参加者、成績優秀者、欠席3日以内就労している者のいずれかに該当する生徒数80%以上	①75%の生徒が学校生活に満足していると回答した。1年生は86%。 ②不登校経験者の在籍率は72%(全学年)。 ③部活動・補習・ボランティア・生徒会活動への参加、成績優秀者、欠席3日以内、就労中のいずれかに該当する生徒は81%(全学年)。中途退学率19%(全学年)。	A 学校生活への満足度は学校全体では目標に達しなかったが、低学年ほど満足度が高い。これを今後の満足度上昇につなげる。不登校の改善率は上昇しているため、PRに努める。明確に「居場所の確保」を努力目標にかかげ、満足度、不登校改善に努める。
2	授業が「わかる」とアンケートに回答する生徒が増えてきた。また、授業が静かであると周囲からも高く評価されつつあるが基礎学力の定着とともに、進路に応じた学力の育成も課題である。	○授業が「わかる」生徒の増加 ○進学希望実現者数の増加 ○静かで落ち着いた授業の実現	①教員相互の授業参観や授業研究により授業の工夫改善を図り「わかる授業」を展開する。 ②学力差の大きい数学、英語は、少人数、習熟度別・ティームテイングによりきめ細かく学力の向上を図る。 ③来校者にアンケート調査し結果を分析、指導の改善に生かす。(通年)	①②授業が「わかる」生徒の割合い80%以上 ③来校者の授業評価「静か」「真剣さを感じられる」が80%以上	①②授業がわかると回答した生徒69%(全学年)。1年生は75%。 ③学校見学者のうち「静か」「真剣」「わかりやすい」との回答者88%。	B 授業は年度後半になって明らかに落ち着いたものになった。しかし、低学年ほど理解度が高いものの、さらなる授業改善が必要である。授業改善の教員研修は有効であったため、さらに充実させる。基礎レベルから、大学を目指す者まで、多様な生徒が在籍する。補習等を整備し、ニーズに応える工夫が必要である。
3	進路未決定で卒業を迎える生徒もまだ多い。入学時からキャリア教育の実践とともに、生徒自らが選択した進路の実現に向かって、教職員も一体となって取り組まなければならない。	○進路未決定で卒業する生徒の減少 ○進路希望達成率	①進路講演会の実施(5月)分野別専門学校体験講座(5月) ②授業・特別活動を通じたキャリアガイダンスの実施(通年) ③就職支援アドバイザーを活用した就職支援と教員の企業訪問	①進路希望未決定者30%以下 ②正規雇用希望者30%以上 ③企業訪問件数50社就職実現率+10%	①進路希望未決定者8%。 ②正規雇用希望者44%。 ③就職実現率69%。(定時制県平均を上まわった。)	A 4年生の進路活動の開始が早かったことで複数の内定を得た生徒もいる。生徒の進路への意欲は高まっているが、なかなか内定を得られない者もいる。内定率は県平均よりは高いが、粘り強く指導を続ける必要がある。
4	改善されつつあるものの、規範意識の定着はまだ不十分である粘り強く指導し、ルールやマナーを遵守する生徒を育成する必要がある。	○問題行動発生率減少 ○無断欠席、遅刻、早退者の減少	①登校時の立哨指導で全教員が全生徒との関係を深め、一人ひとりの生徒を全教員で指導する。 ②無断で遅刻・早退・欠課をした生徒の保護者連絡を徹底する	①問題行動の発生件数の減少 ②出席率90%遅刻率の減少無断早退、欠課者の減少	①昨年より減少傾向にある。同時期比-2件。 ②出席率86%。遅刻率、早退率ともに11月をピークに減少。	B 昨年度に比べ学校全体が落ち着いており、問題行動も小さなものが多くなった。今後、心の教育に取り組む必要がある。出席率は目標を達成できなかったが、遅刻、早退ともに減少傾向にある。担任の小まめな家庭との連携(連絡)を引き続き行う。
5	本校の見学を経て入学する生徒が増えてきた。さらに中学校等との連携を深め、目的を持ち入学を志望する生徒の割合を増やすとともに、保護者の教育への理解と協力を得て、家庭と連携した双方向から生徒の健全な育成を図る必要がある。	○学校見学者数増加 ○入学希望者数増加 ○来校保護者数増加	①中学校への訪問 ②適応指導教室への訪問 ③学校便りの発行(月1回) ④保護者来校案内の工夫	①中学校関係者来校数の増加 ②適応指導教室来校数の増加 ③学校だよりHPへの掲載 ④来校保護者の増加	①②中学校、適応指導教室訪問171校。学校見学件数75件。昨年度比ともに増加。入学志願倍率0.91倍は、夜間定時制トップとなった。 ③学校便りHPへの掲載(毎月)。 ④来校保護者(PTA総会)36名。	A 全職員で中学校、適応指導教室を訪問し、PR活動を行ったが、訪問の目的、時期、回数などを見直す必要がある。地元自治会、保護者との連携を深める方策を立てる。

学校関係者評価
実施日 平成25年2月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>中学校時代に不登校を経験した生徒が増えている。定時制はそのような生徒のやり直しの場として、大きなチャンスとなっている。個々の生徒に適した居場所作りは大変だが、春高定ならではの教育を実践してほしい。</p> <p>定時制でもこのように静かで落ち着いた授業が実現できるのだということが、授業見学などからわかる。地道な教育活動が、生徒一人ひとりの居場所を作っている。またわかりやすい授業の実践が実を結んでいるのではないかな。</p> <p>授業理解度はもう少し上昇させられるのではないかな。</p> <p>なかなか内定がもらえない生徒がいるのは残念である。学力、面接技術など、問題点を明らかにすることが大切なのではないかな。</p> <p>また、企業開拓が進路指導の一つのテーマとなっているようだが、どのように開拓すればよいかな。</p> <p>特に担任の先生方のご指導には頭が下がる。着実に生徒指導の成果が現れているようだ。心の教育に取り組むのは大切な事だと思う。</p> <p>定時制で最も人気のある学校として、これからもPRしてほしい。</p> <p>地元自治会や保護者との連携は言葉では簡単だが、具体的にはどのようなことをやるのかな。</p>